

JHFREPORT



2016ハンググライディング日本選手権IN板敷山スプリングフライトより。板垣選手、逆転を狙ってテイクオフ。撮影：杉山祥一

2016年度JHF事業計画と予算

新年度がスタートしました。JHFは公益社団法人となって6年目を迎え、新年度事業計画と予算を次のように決めました。

何よりも「安全に飛行できること」を重視し、会員の皆様とともに事故ゼロをめざして、活動をしていきます。

事業方針

2015年度は多くの重大事故が発生し、モーターパラグライダー5名、パ

ラグライダー7名、ハンググライダー1名、合計13名の方が亡くなりました。事故原因の中には、ハーネスレグベルトの装着忘れや水中落下といった基本的なエラーのほか、空中で病気のために意識を失ったと思われるものもありました。

安全に飛行できることは普及の前提条件です。今後も教本作成や安全セミナーなどを通じてパラグライダーやハンググライダー事故の防止を図ってい

きます。また、フライヤー自身のケガを保障するJHF総合保障制度の加入者の拡大を図ります。

なお、モーターパラグライダーは、JHFなどの団体に一切所属しないでフライトしている人も多く、その人たちに対しても安全を呼びかけることが事故の防止には不可欠です。そこで、JHFの会員でない人たちをも対象としたモーターパラグライダー（MPG）パイロット安全セミナーを開催します。



FOR ALL SPORTS OF JAPAN

JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

事業の具体的内容

【理事会・事務局の事業】

- 1 愛好者増加の推進
- 2 寄付・助成金獲得への取り組み
- 3 ハング・パラグライディングのイメージ向上・宣伝告知
- 4 全国のフライヤーの実態把握と安全対策検討
- 5 委員会の主体的活動のバックアップ
- 6 ボランティア制度の活用促進
- 7 フライト中の情報交換を可能にする無線機の普及
- 8 フライヤーのための損害保険の告知と普及
- 9 スクールのための施設賠償・損害保険の告知と普及
- 10 第三者賠償責任保険の付保継続
- 11 その他定款の定める管轄事項

【常設委員会・事務局（広報出版）の事業】

●安全性委員会

- 1 事故情報の収集と管理
- 2 事故調査活動
- 3 機体登録制度の推進
- 4 MPGパイロット安全セミナーの開催
- 5 パイロット安全セミナーの展開(教員・スクール事業委員会と合同)
- 6 DHV、PMA、EAPR (European Para Academy) 訪問
- 7 MPGエリアマップの作成

●教員・スクール事業委員会

- 1 パイロット安全セミナーの展開(安全性委員会と合同)
- 2 ハンググライディング (HG) 教本の編集
- 3 パラグライディング (PG) 教本改訂および学科試験の見直し
- 4 教員検定の開催および検定内容の見直し
- 5 検定員検定内容の見直し
- 6 正会員向け安全セミナープログラムの作成
- 7 スクール支援のための事業企画と実施 (スクールグッズの安価制作、スクール保険の見直し検討、JHFウェブの活用など)
- 8 2017年教員検定員研修検定会の準備

●HG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 HGシリーズとクロスカントリーリーグの活性化と支援
- 3 HGシリーズとクロスカントリーリーグの管理運営
- 4 HG競技委員会ホームページの管理運営
- 5 クラス1日本選手権の開催 (2016年3月17日～21日、茨城・板敷)
- 6 クラス5日本選手権の開催 (時期、開催地未定)
- 7 クラス5世界選手権 (マケドニア) に選手派遣
- 8 各種大会の公認および後援申請に対する審議および承認
- 9 スポーツクラスの活性化検討

●PG競技委員会

- 1 ルールブックの改定
- 2 ウェブ事務局／ホームページ管理
- 3 Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグの管理
- 4 J2リーグの活性化・支援
- 5 XC日本選手権の開催 (時期、開催地未定)
- 6 アキュラシー日本選手権の開催 (時期、開催地未定)
- 7 アキュラシーアジア選手権 (5月27日～6月3日、カザフスタン) に選手派遣
- 8 ホームページによるタイムリーな大会結果の発表

●制度委員会

- 1 JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
- 2 理事会諮問事項への答申
- 3 IPPIカードに準じたHG技能証規程の改定
- 4 HG教本の全面改訂作業に協力
- 5 パラ補助動力、MPG教本 (副読本) に伴う技能証規程の改定
- 6 委任状による総会開催 (ブロック組織の新設) の研究
- 7 FAI技能記章に関する事項の検討
- 8 IPPI付き技能証の検討

●補助動力委員会

- 1 MPGパイロット安全セミナーの開催 (各地)
- 2 MPG全国大会の開催 (5月 香川県、10月 千葉県)
- 3 下総自衛隊安全会同への参加

- 4 教本DVD化およびトーイング教本の作成準備
- 5 会員増加のための取り組み・事故対策への取り組み

●ハングパラ振興委員会

- 1 HGのパンフレット (紹介版) の発行
- 2 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討
 - ・フライヤーズボイスの活用についての検討 (継続)
 - ・引越し、転勤などによるエリア移動の問題の分析と対応策検討
 - ・学生が卒業に伴いやめてしまう問題の分析と対応策検討
 - ・加齢による影響など
- 3 HG教本およびPG教本改訂への協力

●役員選任実行委員会

- 1 2017年度役員選任に向けての準備
- 2 役員選任規約の改定準備

●事務局 (広報出版活動)

- 1 JHFウェブサイトの運営 (スクール紹介サイトを含む)
- 2 JHFレポートの発行
- 3 白書「HG・PG JHF活動実績」の編纂と発行
- 4 関連媒体への情報提供 (ハング・パラグライディング関連雑誌に情報を提供)
- 5 一般媒体などへの情報提供 (ハング・パラグライディングの紹介、イベントやエリアの紹介など)
- 6 スクールなどへの情報提供
- 7 日本のHG・PGの歴史編纂事業

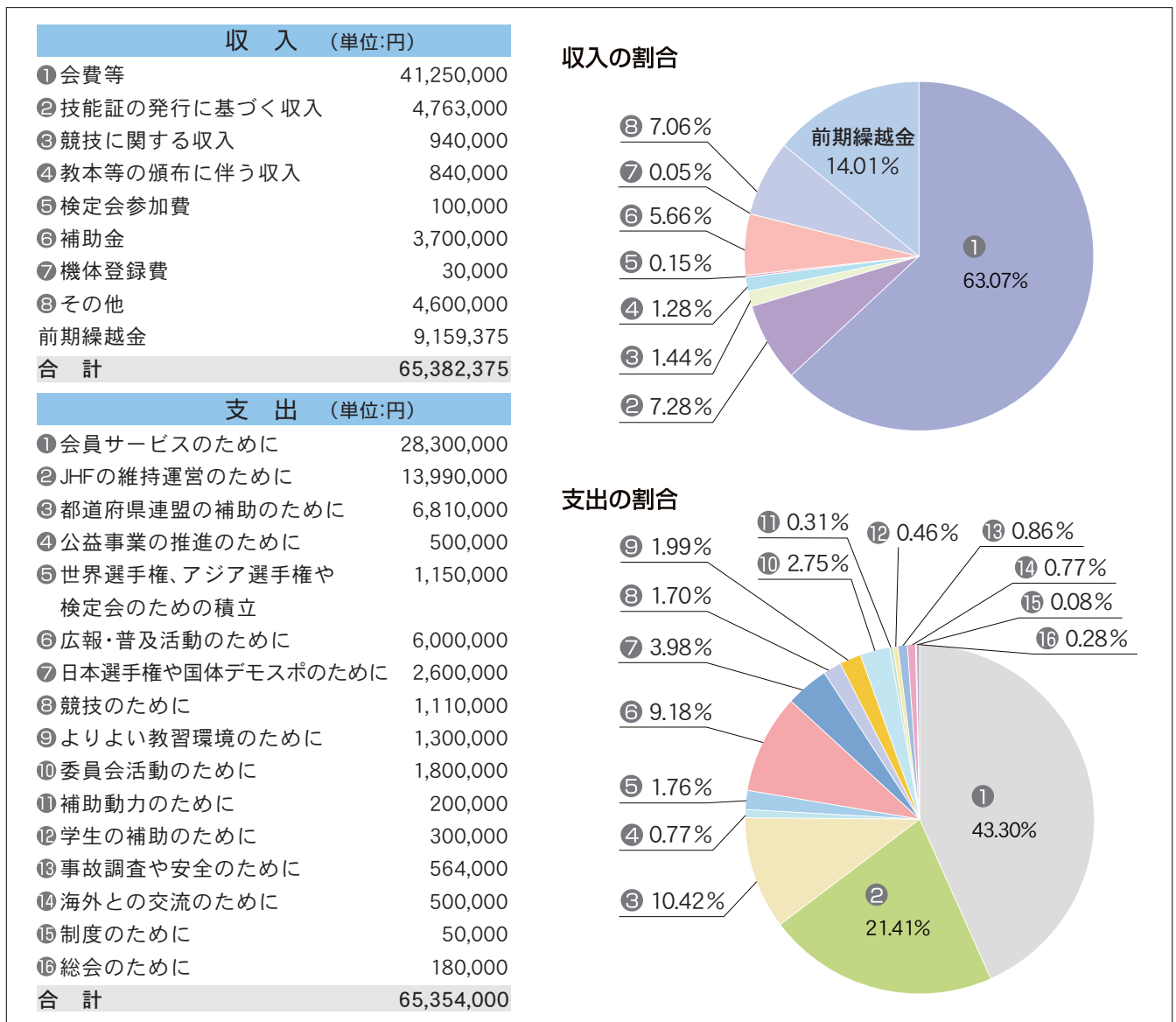
【その他の事業】

上記のほか、JHFの目的達成に必要な下記の事業を行う

- 1 技術に関する事業
- 2 教育に関する事業
- 3 安全に関する事業
- 4 競技に関する事業
- 5 その他普及啓蒙に関する事業

予算

2016年度予算の収入と支出の内訳を次ページのとおりグラフにしました。会員の皆様の会費や申請料などが、JHFのどのような活動に活かされるのか、ご覧ください。



2016年度・2017年度委員を選任

JHFには八つの常設委員会があり、各委員の活躍が、さまざまな事業の原動力となっています。

委員の任期は2年間。3月31日の前期委員任期満了にともない、JHF理事会は下記の方々を新委員として選任しました（アイウエオ順）。各委員が委員会活動に力を発揮できるよう、会員の皆様のご協力をお願いします。

安全性委員会

定員6名→今期限定7名
伊尾木浩二、桂敏之、下山進、竹村治雄、西本一弘、目黒敏、山本貢

教員・スクール事業委員会

定員6名
伊尾木浩二、岩橋亘、北野正浩、小林秀彰、下山進、山谷武繁

HG競技委員会

定員5名
板垣直樹、鈴木由路、田中元気、野尻知里、牟田園明

PG競技委員会

定員5名
岡芳樹、上山太郎、児島 彰、村上修一、山谷武繁

制度委員会

定員5名
泉秀樹、井上潔、小林秀彰、中瀬誠、宮川雅博

補助動力委員会

定員5名
伊尾木浩二、須藤彰、橋田明夫、宮本司、椋本清治

ハングパラ振興委員会

定員5名→今期限定6名

井上潔、鈴木由路、福田武史、堀江譲、宮川雅博、山口隆文

役員選任実行委員会

定員5名
荒井稔、鈴木由路、島野広幸、中瀬誠

各委員会の活動については前号P2-3の委員募集記事でご紹介したとおりです（バックナンバーはJHFウェブサイトの会員ページトップ[JHFPREPORT.pdf]でご覧いただけます）。

新年度を迎え、各委員会は気持ちも新たに活動を開始。それぞれ第1回の委員会で委員長を互選し、任期2年間にどのような活動をするか、その後に何をしないかを検討します。

エリア等で委員を見かけたら、ご要望など気軽にお話しください。

JHFの動き

FAIアキュラシー記章が 5選手に授与されました

国際航空連盟 (FAI) 技能記章とは、スポーツ規程に基づき、優秀な飛行記録を達成し申請した方に授与されるバッジです。パラグライディングアキュラシーのバッジには、ダイヤモンド章、金章、銀章、銅章があります。

2012年6月に台湾で開催された第1回FAIパラグライディングアキュラ



安田JHF副会長からFAI銀章を受ける川村眞さん。

シーアジア選手権の成績により5名の選手の受章が決定。2015年アキュラシー日本選手権閉会式の中で、JHFから各人にバッジをお渡ししました。

ダイヤモンド章：水野良信、岡芳樹
金章：古賀光晴

銀章：川村眞、東武瑞穂

礧本容子選手の368km飛行を 女子世界記録として申請しました

今年、オーストラリアでの大会で礧本容子選手が368kmを飛行。これを日本航空協会 (JAA) にハンググライダー直線目的地飛行の女子世界／日本記録として申請しました。日本ハンググ界初の世界選手権者となった礧本選手、再びの「世界の頂点」が期待されます。

第4回フォトコンテスト ぜひご応募ください！

今年も「JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト」を開催します。

JHFは、ハンググライダーやパラグライダーが、写真を通じてできるだけ多くの人々の目に触れることが普及のために必要であると考え、フォトコンテストを開催してきました。第4回となる今回も、ハンググライダー、パラグライダーの楽しさを伝えられるような作品を募集。多くのご応募をお待ちしています。

応募締切は9月1日 (木)、JHF事務局必着。応募要項など詳細は、JHFウェブサイトでお知らせしています。ぜひご応募ください。

JHF総合保障制度2016年度募集スタート

フライヤー自身の怪我などに備えるためのJHF総合保障制度の今年度募集が始まりました。以下は東京海上日動火災からJHFフライヤー会員の皆様へのお知らせです。

東日本大震災から5年が経ちました。被災された地域の皆様、そのご家族、関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、復興に向けご尽力されている関係の皆様方に敬意を表するとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

■『JHF総合保障制度』とは

任意でご加入いただくフライヤーの為の傷害保険です。搭乗中はもちろん、お仕事でも補償されます。また、地震、噴火またはこれらによる津波等の災害によるおケガも対象となります。

ご注意くださいのですが、フライヤー登録をすると自動加入されるのは第三者賠償責任保険です。本保障制度はあくまでも任意でご加入いただく必要がございます。

■2016年度募集がスタートします

今年度で11年目を迎える本保障制度は、2016年3月1日現在約830名の会

員の皆様にご加入いただいております。

まずは、引き続き安全なフライトをお心がけいただき、事故なくおケガなくフライトを楽しんでいただくことが大切ですが、万が一の時のための支えとして、本保障制度をご利用いただけますようお願い申し上げます。

◇JHF総合保障制度の特徴

・国内外を問わず、パラグライダー (含むモーターパラグライダー) 搭乗中はもとより、お仕事や日常生活でのおケガ、および遭難の際にかかった捜索費用等の補償を致します。

・地震、噴火またはこれらによる津波での傷害についても補償対象となります。(この場合は救済者費用保険金につきましては対象となりませんのでご注意ください)

・団体割引5%が適用されますので、保険料が割安です。

◇現在ご加入の皆様へ

更新のご案内を4月上旬に郵送させていただきます。大切なお知らせですので、書類到着後、必ず内容のご確

認をお願い致します。その上で、以下ご対応をお願い致します。

☐プランに変更あり

期日までに訂正の上ご返送ください。

☐プランに変更なし

自動継続となります。ご返送不要です。

☐ご解約

必ずご返送ください。

◇新規ご加入の皆様へ

ご加入をご希望される場合は、同封のパンフレット等をよくお読みいただきお申込みください。

※締切厳守…5月10日 (火) 必着

【保険に関するお問合せ先】

東京海上日動火災保険代理店
(株)東海日動パートナーズTOKIO
池袋支店

〒170-0013

東京都豊島区東池袋1-35-3

池袋センタービル10階

Tel : 03-6907-4622

(月～金曜日 9:00～17:00)

Fax : 03-6907-4622

Email : info.ikebukuro@tnpgrp.jp

フライヤー登録と同時に加入する保険 (第三者賠償保険) では、
ご自身のおケガは補償されません！

JHF 型式登録機／機材情報登録機

フライヤー会員登録、技能証制度、機体登録制度が、JHF活動の根幹である三本柱です。この三本柱のひとつ、機体登録制度をより広く知っていただくために、新規登録機情報を掲載します。

現在、JHFでは二つの機体登録制度、「型式登録」と「機材情報登録」を運用

しています。

日本のハンググライディング初期に始まった「型式登録」は、現在、JHF安全性委員会が審査し判定しています。手続きが完了した機体に登録番号を付与、JHFが登録証明書を発行します。

また、2010年11月より「機材情報登

録」を、より広い範囲の機体情報を提供するために追加運用しています。この「機材情報登録」は、輸入者／製造者／販売者が、販売機材を届け出て登録を行うことで責任の所在を明らかにし、JHFとして実態を掌握することを目的としています。

機材 情報登録機						
登録番号	H-0001～0002	H-0003～0005	H-0006～0008	H-0009～0010	H-0011～0013	H-0014～0015
登録年月日	2016年 3月25日	2016年 3月25日	2016年 3月25日	2016年 3月25日	2016年 3月25日	2016年 3月25日
製造者	Wills Wing Inc.	Wills Wing Inc.	Wills Wing Inc.	Wills Wing Inc.	Wills Wing Inc.	Wills Wing Inc.
製造国	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国	アメリカ合衆国
型式	Alpha	Falcon 4	Sport 2	T2	T2C	U2
認証	HGMA	HGMA	HGMA	HGMA	HGMA	HGMA
推奨技量	A級	B級	C級	P証	P証	C級
推奨体重(kg)	54～100	45～100	50～100	58～91	58～91	55～93
輸入者名(販売者)	スポーツオーパカイト	スポーツオーパカイト	スポーツオーパカイト	スポーツオーパカイト	スポーツオーパカイト	スポーツオーパカイト
URL	www.opa.co.jp	www.opa.co.jp	www.opa.co.jp	www.opa.co.jp	www.opa.co.jp	www.opa.co.jp

学 連 ニ ュ ー ス

PG学生選手権報告

1st class 1位

福丸 貴大 山口大学

2nd class 1位

井川 康介 福井県立大学

Open 1位

山田 航大 東京都市大学

3月8日から11日の4日間にわたり、茨城県足尾山フライトエリアで第20回全日本パラグライダー学生選手権が開催されました。

競技は、パイロット証以上がクロスカントリー、ノービスパイロット以上がデュレーション、フライト本数20本以上がターゲットと、3つのクラスに分かれて行われました。

2日目は生憎の雨模様となりましたが、1・3・4日目は無事競技を行うことができました。

例年20人程度の参加者であった学生選手権ですが、15の大学から34人と多くの選手が参加しました。南は山口、北は秋田という幅広い地域の学生が各々交流を深めました。

パラグライダーを競技として始めようとする人は非常に少なく、大会参加に抵抗がある学生は多いと思います。しかし普段とは異なった環境でフライトを行うこと、また日頃の努力を発揮する場として、大会は絶好の機会であるということをより多くの学生に知っていただけたらと思います。

最後になりますが、大会を公認してくださったJHFの皆様、ご協賛いた



競技は技能別に3つのクラスで行った。

いた企業の皆様、nasaインストラクターの皆様、学生スタッフのみなさんに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。（報告：富沢友菜）

日本学生フライヤー連盟（JSFF）はパラグライディング／ハンググライディング学生リーグを展開しています。詳しくは<http://jsff.org/>で。



15大学の34選手が参加し交流を深めた。



表彰式を終え選手集合。多くの応援に感謝して。

国際航空連盟（FAI）の国際ハンググライディング・パラグライディング委員会（CIVL）の総会が例年どおり2月に開催され、日本を代表するデレゲート（委員）として、岡芳樹さんが日本航空協会より派遣されました。以下は岡さんの報告です。

*PG=パラグライディング

HG=ハンググライディング

PGA=PGAアクチュアリー

日程：2016年2月18日～21日

（各委員会18日・19日、総会20日・21日）

場所：スイス、ローザンヌ

（各委員会：MSI=Maison du Sport International

総会：ホテルMovenpick）

参加国：出席26

（アルジェリア、オーストリア、ベルギー、ブルガリア、中華人民共和国、台湾、コロンビア、デンマーク、フィンランド、フランス、マケドニア、ドイツ、ハンガリー、インド、インドネシア、イタリア、日本、ポーランド、ポルトガル、ロシア、セルビア、スロベニア、タイ、トルコ、イギリス、アメリカ合衆国）。委任状6（カナダ→アメリカ合衆国、香港→タイ、韓国→台湾、スペイン→コロンビア、スウェーデン→デンマーク、スイス→オーストリア）。計32ヶ国

【レポート・議決事項】

公認大会数

FAIからのレポートによれば、各委員会の公認大会数としては、CIAM（模型）が351大会で1位、CIVLが296大会で2位と断トツ。それ以外の委員会では二桁止まり。

CIVL会長レポート

□FAIはエアゲームズシリーズなる

コンセプトに予算を付けて推し進める。目的は、エアスポーツを観客、メディアに対してアトラティブなものとし、もっと一般社会にプレゼンスを知らしめること。

□2024年オリンピックにパリが立候補する意向。成功したらPGを種目に含める方向で計画している。

□2016年5月1日以降、カテゴリ2の公認申請には、公認申請書類に加えて、公認料を支払ったことの証書を、同時にCIVLの大会コーディネーターに送る。

HG関連

□jump the gunのペナルティーは、1秒につき2点とする。

□競技の公平性の観点から、公開されるライブトラックの情報は十分な遅延時間を設け、遅延の時間は以下とする。

*複数回ゲートの場合：スタートゲートのインターバル+5分

*それ以外の場合：15分

□クラス5のカテゴリ1への参加条件として2条件が決められた（大会開始の3か月前からさかのぼる36ヶ月間において）

a) 最低30人以上の選手が参加したカテゴリ2大会にクラス5のグライダーで出た経験があること。

b) クラス1、2、あるいは5のワールドパイロットランキング(WPRS)で少なくとも20点を持っていたことがあること。

PG関連

□距離計算にはFAI球体を使用する（現状と同）。高度は気圧高度を使用する（ヨーロッパ選手権までの大会で試して最終判断する）。

□ヨーロッパ選手権において、使用するスコアリングシステムは、改訂スコアリングソフトウェア（FS）が間に合えばそれを使用するが、間に合わなければコンペチェックを使用することとし、最終判断は理事会に任せる。

コンペティションクラス（CCC）関連

□計算上強度は23Gにアップ（現行14G）。

□ライン強度は最低40daNにアップ

（現行20daN）。

□アクセルレンジは最大14cm（現行は18cm）。

□高速時のテストは、A-Bライザーの差を10cmに制限するリミッターを装備して行う（現行はフルアクセル状態でテスト）。

□回復テストにおいて、パイロットが操作してから3秒以内に回復すること（現行5秒）。

□XSサイズ（最大飛行重量が90kg以下）の飛行試験は認証機関で行う。スケリングで製造された他のサイズの飛行試験は、メーカーのパイロットにより実施することで足りる。XSサイズは、大会開始90日以上、他のサイズは60日以上前に選手が入手できなければならない。

PGA関連

□参加機体は、EN認証を取得しているものあるいは、コンペティションクラスの23G規定を満たすものとする。

□アクチュアリー・バッジも記録同様、DC 2cmパッドだけを対象とする。

□新たに、ダイヤモンド章として、以下の2項目を追加する。

a) 5回連続して5cm以内のフライト

b) 3回連続して0cmのフライト

IPPIカード関連

□バルクで購入することが出来る（1枚0.20ユーロ、年間の発行数分をCIVLに支払う）。

□CIVLは、NACおよびその他の連盟にもIPPIカードの発行を委任することが出来る。

□CIVLはIPPIカード発行を委任した機関に、IPPIカードの発行料を問い合わせることが出来る。

□CIVLは法外な発行料を課している機関からIPPIカードの発行委任を引き上げることが出来る。

FAIスポーツングライセンス（SL）関連

□SLの発行拒否、あるいは発行したものの引き上げには、その理由を英文でFAIに提出することとする。

□SLは道理にかなった金額で発行するものとし、FAIに支払う金額に上乗せする金額に関しては、その説明文を



2日間にわたる総会には26の国・地域の代表が出席した。

英文でFAIに提出することとする。
□バジフライトにはSLは不要とする。
□FAIオフィシャル（ジュリー、スチュワード、ジャッジ）にはASC（HG・PGではCIVL）が無料でinternational official card（仮称）を発行する。それらがFAIルールを理解し順守する証となる。カテゴリー1大会でのオフィシャルはこのカードを所持していなければならない。

理事会からの提案関連

□副会長の中から第1副会長を理事会が選任する。会長が不在あるいは会長が委任した場合は第1副会長が会長の代わりとなる。
□WPRSポイント・システムは、FAIのSLを持つ、FAI公認大会参加選手に対してポイントを与えランキングするもの。一度FAIカレンダーに掲載された公認大会は、たとえ何らかの理由で公認が取り消されたとしても、理事会の判断で参加選手にポイントを与えることが出来ることとする。理事会の判断は公表される。
□カテゴリー2大会の公認料は大会の選手参加料の1.5倍（現行1倍）とする。ただし最低は50ユーロ（現行20ユーロ）とする。
□カテゴリー1大会の公認料は、現在の公認料算定方法は面倒なので、参加選手数のみを変数として簡略化する。また、現行の国別ランキング上位3ヶ国がFAIに直接払うことを止め、上位1位の国のみがFAIに直接払うこととする。また初めて開催される大会の公認料を50%に減額する措置は、これまで長期間にわたり利用されていないので取りやめる。
□ソフトウェアに関して、これまでとは殆どボランティアで行ってきたが、限界があるので、FLYTECと正式に契約を結んで行うこととする。これまでのFSのメンテナンスに関しては年間120時間までは無償で行うこととなる。

セクション7（S7）関連

□これまでのA（HG）、B（PG）、C（PGA）、D（記録・記章）という分け方を、コモン（HG、PG共通）、A（HG・PGのクロスカントリー関連）、B（PGアクロ関連）、C（PGA関連）、D（記録・記章関連）に改編する。
□S7コモン（共通）：カテゴリー2大

会の大会成立条件を、各種目1本とする。

□S7A（HG・PGXC競技）：
[4.1.3] カテゴリー1大会およびそのプレ大会においてライブトラッキングは必須となる（例外としたい主催者は、大会の立候補時点でその旨要求することが可能）。
[4.2.1] プライマリーGPSに不具合があった場合にのみ、バックアップGPSを提出できることとする。
[6.3] 空域違反（高度も含む）のペナルティーは、境界の手前100mから境界の内側30mまでは、警告のみでポイントの罰則無し（タスク結果にその旨表示される）。境界の内側30m以上入ったら、そのタスクゼロ点になる。
[6.3.1] 雲中飛行に関する項目は、PGのみに適用。For example…taken by cloud flying.の文章を削除。

□S7C（アキュラシー）：

・measuring fieldは最小5mとするが、ローカルルールに記載することで、5m以下にすることも可能に。
・現在はファイナルラウンドのみがランキングの逆順で飛ぶことになっているが、これを、選手が余裕をもってテイクオフへ上られるならば、第1ラウンド以降適当なラウンド毎にランキングの逆順で飛ぶことも可能とする。
・2017年1月1日以降、スコアリングは出来ればオンラインで、観客に見せられるライブスコアリングとする（選手がランディングしたら、すぐにスコアがスコアボードに表示される）。
・個人ランキングで上位3位までに同得点が出た場合で時間的にタイブレークのフライトが出来ないときの処置に関して、現行のS7には記載がないが、「その場合は、ゼロスコアのラウンド数が多いほうが上位とし、それも同点の場合は、1cmスコアのラウンド数が多いほうが上位とする。以降はこの繰り返しとする。」を追加する。
・2017年のアルバニアの世界選手権を利用して、国際ジャッジ会議を招集し、ジャッジの質の向上・均質化を図る。
・女子世界選手権の開催を目標に、カテゴリー2の女子ワールドカップ開催を検討する。
□ブルガリアからの提案：
・1.空域違反に関しては、新しいS7Aに変更されているので、取り下げることとする。

・2と3（リーディングポイント）に関しては承認され2016年5月1日から採用する。

□GAPの計算式：

Leading Weight=(1-Distance Weight) * 1.4/8を
ゴール者がいないときは、Leading Weight=0.1 * (Best Distance/Task Distance)とし、
ゴール者がいる時は、Leading Weight=(1-Distance Weight) * 1.4/4とする。
これにより、リーディングポイントはこれまでより多くなる。ゴール者がいないときは現行の最大18点のところ、最長距離がタスク距離の半分であれば最大50点になる。ゴール者がいる時のリーディングポイントはこれまでの倍になる。

選手権の承認

以下の選手権が承認された。
・クラス2世界選手権：2017年8月2日～9日 Serres フランス
・クラス1ヨーロッパ選手権およびクラス5世界選手権：2018年7月14日～28日 Ager スペイン
・PGパナム選手権：2018年4月1日～15日 Baixo Guandu ブラジル
・PGAヨーロッパ選手権：2018年9月15日～22日 Kobarid スロベニア
・PGAアジア・オセアニア選手権：2018年5月26日～6月3日 Lopburi タイ
・クラス1世界選手権：2019年7月12日～27日 Friuli-Venezia-Giulia イタリア

表彰

・ペペ・ロペス・ディプロマ：ハンガリー推薦のJozsef Szalay氏に。
・PG&HGディプロマ：メキシコ推薦のMIGUEL GUTIERREZ氏に。
・エアースポーツメダル：フランス推薦のEduc'en Ciel（フランスのHG/PG連盟が13年間にわたって行ってきた、子供たちを空に関心を寄せさせるプログラム）に。

次回開催

次回のCIVL総会は2月2日～5日の日程で、オーストリアのザルツブルグで開催する。





2016ハンググライディング日本選手権IN板敷山スプリングフライトより。撮影：鈴木康之

飛行と健康

医師 立山 俊朗

ハング・パラグライダーの事故報告書から見ると、身体に異常をきたして引き起こした事故は2010年から2015年の6年間で7件あり、その年齢は50～75歳、平均59歳であった。

6年間で7件なので、その発症率は約1.2件／年となる。身体異常状態で事故死したパイロットは熟達した方で、また年齢が高い方に多い傾向がある。無理をしたわけではなくとも年齢的に身体には多少の無理がかかっていたのかもしれない。はたしてこの事故発症率は高いのだろうか？

健康と飛行の安全について2年毎に注意喚起のために小論を掲載してきました。どのようなスポーツでも多少のけがを被る事は仕方のないことです。しかしながら生死が関係すると問題は桁違いに大きくなり、本人の健康問題以上にそのスポーツの適正度が社会から問われます。「無謀なスポーツ」と。たとえある程度のリスクを覚悟した上で飛行していても。

ハンググライダー・パラグライダーという3次元のスポーツは、一般の方々から見ると異次元のスポーツで危

険がともなう行為に映ると思います。これから多くの仲間がこの異次元の世界をスポーツとして安全に楽しむにはどのような事を理解しておいた方が良いかを考えてみました。

マラソンの心肺停止発症率は4万5千人に1名

まず、一般的なスポーツにおける事故、特に心肺停止のケースを考えてみます。

最近ではマラソンブームが定着しており、ランナー数は、ちょっと走っている人を含めると約1000万人。定期的に週2回以上練習している人は374万人(2014年笹川スポーツ財団調査)、全人口の3.4%である。この中でフルマラソンを完走した人は2012年度で273,754人(陸連公認コースに限る)。フルマラソンやハーフマラソン参加者で心肺停止になった人は、過去10年間(2002年～2011年)に107例と報告されている。

大会中にマラソンランナーが心肺停止となる事故が毎年10件近く報告されており、それらの心肺停止例107例中、年齢の判明した心肺停止例82例を各年代別にみると、20歳未満0例(0%)、20～29歳15例(18%)、30～39歳10例(12%)、40～49歳18例(22%)、50～59歳23例(28%)、60～69歳12例(15%)、70歳以上4例(5%)であった。

東京マラソンにおける心肺停止者の確率は4万5千人に1名である。

年齢別参加者構成が判明している京都マラソン(16000人参加)での参加者構成は、30歳以下7.8%、30歳代23.9%、40歳代39.8%、50歳代22.9%、60歳代5.6%である。この数値を年齢の判明している心肺停止例82例に照らし合わせる。するとマラソン中の心肺停止発症率は50歳以下では10万人に1名だが、50歳代でその2.4倍、60歳代でその5.1倍となる。(表2)。

これらのデータは記録として残されたもののみであるが、私の周りにマラソン大会で心肺停止患者を救済した医師2名、自分が心肺停止した医師1名がいる事から考えると、発症率はもっと高いのではないかと推測している。

ここで大切なことは、日頃練習を積んでフルマラソンに参加する元気な人が4.5万人に1人の割合で心肺停止する事実である。この確率は、30歳代

と比較すると50歳代で約2.5倍、60歳代で約5倍と年齢とともに増加するという現実である。これは一般に50歳を境に多くの病気が増加していくのと同じ傾向でもある。

マラソンランナーと同程度の心肺停止発症率

フルマラソンでの心肺停止発症率が4.5万人に1人であるが、これに比較してハング・パラグライダーパイロットの心肺停止率はどうかだろうか？

パイロット人口を仮に1万人(2016年2月末現在のJHF登録フライヤー数:8,103人)として、1名の年間平均搭乗日数を10日と仮定して検討してみる。

1年間にパイロット1.2名が心肺停止する場合は1.2名÷のべ搭乗日数で(心肺停止率=1.2/100000=1/83333)すなわち、ある1日に8.3万人のパイロットが飛ばば1名は心肺停止する事になる。

これは東京マラソンでの心肺停止発症率より低い値である。この値は前提としてのパイロットの年間平均搭乗日数により変化する。搭乗日数が多ければ発症率は下がるし、その逆もある。

では、一般生活者を含んだ心肺停止発症率はどうかを考えてみよう。

国内で心肺停止が原因で緊急搬送される患者は年間11万人、1日では301人。日本の人口は1億2700万人(2013年)なので、1日当たりの発症率は301÷1億2700万、すなわち42万2千人に一人が倒れていることになる。

マラソンでは4万5千人に一人が倒れるので、運動負荷がかかるスポーツでの発症率は10倍となる。同様な事がグライダーの搭乗でも起きているので、私達のスポーツはマラソン並みの危険性はある事になる。(表1)

空にAEDはない

マラソンランナーにとってはAED(自動体外除細動器)の普及に伴い90%弱の心停止者が蘇生される時代となってきた。

ハング・パラグライダーと同様に中高年の愛好者が多いヨットは1万艇ほどが国内にあるが、心肺停止症例はほとんどない。唯一ヨットレース中に動かなくなった選手を他艇が発見し、救

表1 10万人の中である日心肺停止が起こる人数

一般人	0.27人
マラソンランナー	2.2人
ハング・パラパイロット	1.2人

表2 東京マラソンにおける心肺停止者の年齢別比

30歳代	1倍
50歳代	2.5倍
60歳代	5倍

表3 危険因子

心筋梗塞危険因子	脳卒中危険因子
高血圧	高血圧
喫煙	糖尿病
糖尿病	脂質異常症
脂質異常症	心臓病
肥満	喫煙
	多量飲酒

*多くは生活習慣による病因

助艇により緊急搬送され、蘇生した例が報告されているのみである。ヨットの死亡事故はほとんどが落水による溺死である。またヨットは単独よりも複数で乗艇していることが多いので、心肺停止となった人がいてもヨット事故にはならず、ニュースとして取り上げられる事もない。

一方、グライダーは単独で操作する事が主であるので、パイロット自身が心肺停止になってしまうと操作不能・墜落への道へと直結してしまう。

救命蘇生の可能性があっても、墜落による衝撃が大きすぎるので死に至る事になる。また心肺停止まで行かずとも、意識消失によりグライダーの墜落が生じると、その衝撃により心肺停止が生じれば何が原因だったかは不明となる。

心肺停止となる大きな原因は脳卒中と心疾患である

人が死亡する比率は1年で10万人中658人。つまり10万人住んでいる一般的な地区において1年間に658人が死亡している。そのうち心肺停止状態者は対10万人比で100人であり、死亡者の15%を占める。脳出血と心疾患が原因で心停止した人は、さらにその内の62人である。脳出血死と心筋梗塞死の比は10:11と心筋梗塞による死亡が少し多いが、大差はない。

これらの死亡率を年齢で比較すると、20歳代に比べ50歳ですでに若年者の21倍、70歳では114倍の発症率である。驚くべき加齢による心肺停止死亡率の増加である。

心筋梗塞危険因子と脳卒中危険因子

日本人の心筋梗塞危険因子は①高血圧、②喫煙、③糖尿病、④脂質異常症(コレステロール高値)、⑤肥満である。

また、脳卒中危険因子は①高血圧、②糖尿病、③脂質異常症、④心臓病、⑤喫煙、⑥多量飲酒であり、多くは生活習慣病である。(表3)

心筋梗塞も脳卒中もともに、中高年になると長年の不養生の結果として表に病気が出てきた結果である。よほど健全な生活を目指していない限り避けたい病気とも言える。



「危険なスポーツ」というレッテルを貼られないよう、健康管理もしっかりしたい。(写真は記事に関係ありません。)

現在これらの危険性がどの程度あるかを知るには、下記で簡易な判定を試してみると良い。

脳卒中・心筋梗塞 危険度予測シート
(茨城県立健康プラザ)

http://www.hsc-i.jp/03_seikatsu/stroke_myocardial_risk_sheet.htm

対策として取れることは限られている

これは以前の小論の繰り返しになるが、40歳過ぎたらしっかりした健康診断を1年に1回受ける事。

病気はちゃんと治療し、薬はちゃんと飲む事(自己判断でやめぬ事)。薬の自己判断休薬による病状悪化や脳出血例は少なくない。

タバコは血管の収縮を引き起こすので極力吸わないか、少なくとも搭乗前の一服はしない事。

水分の補給は十分にすること。フライト前の12時間はアルコールを飲まない事。

新しい薬を飲み始めて2週間はフライトせずに体調を観察する事。

寒さ対策は十二分に行う事。

50歳、60歳と事故危険率は倍増するので、無理は禁物。

以上を注意した上での事故は運命とあきらめるしかありません。ただその事故が『ハング・パラグライダーは危険なスポーツ』という偏見にならない事を祈りながら。

最後に、次の世代にもこのスポーツを楽しみ続けてもらうために、事故が起きた時に周りからコメントを求められたら、次のように述べる事が大切であろう。

「ハング・パラグライダーにおける心肺停止率は高齢者では多くなる傾向があるが、マラソンランナーの心肺停止発症率よりは低い。しかし残念なことに空の上ではAEDも無いし、手をさしのべてくれる人がいないので、大きな事故になってしまいます。このことを多くのパイロットは自覚した上で、さらに健康を意識しながら飛んでいる事をご理解頂きたい。」

つまり私達はマラソンランナーと同程度のリスクを承知した上で、空飛ぶ夢を取っていることになる。



立山俊朗
TATEYAMA Toshiro
62歳

所属: 緩和会

横浜クリニック 理事長/医師

専門: ペインクリニック(痛みの治療) 専門医、頭痛専門医、麻酔専門医、機械工学

趣味: パラグライダー、ヨット、日曜大工、軽飛行機(自家用小型機操縦士)

パラグライディングジャパンリーグ/HG&PG XCリーグ 2015年ランキング王者決定! その2

リーグ戦を勝ち抜いたパイロットたち/2015年競技を振り返って

前号に続き2015年競技のリーグ戦勝者たちのコメントを紹介します。年間チャンピオンとなった皆さん、おめでとうございます。

すでに始まっている2016年シーズン。あなたも競技に参加してはいかが?

パラグライディング ジャパンリーグ 【オープンクラス】

〔総合〕

1位	呉本 圭樹	東京	6730.7
2位	岩崎 拓夫	京都	6430.8
3位	上山 太郎	大阪	6430.4
4位	多賀 純一	神奈川	6244.1
5位	廣川 靖晃	静岡	5943.2
6位	若山 朋晴	静岡	5907.5

〔女子〕

1位	高田 奈緒	東京	5464.4
2位	山下 敦子	兵庫	5390.1
3位	平木 啓子	静岡	4613.8

【スポーツクラス】

〔総合〕

1位	高田 奈緒	東京	5464.4
2位	山下 敦子	兵庫	5390.1
3位	中目みどり	東京	4543.3
4位	長島 信一	埼玉	4517.2
5位	田中 健	滋賀	4486.2
6位	村田 好彦	埼玉	4284.9

〔女子〕

1位	高田 奈緒	東京	5464.4
2位	山下 敦子	兵庫	5390.1
3位	中目みどり	東京	4543.3

【国際大会選抜】

〔総合〕

1位	呉本 圭樹	東京	318.3
2位	岩崎 拓夫	京都	251.8
3位	成山 基義	大阪	230.1
4位	上山 太郎	大阪	229.2
5位	若山 朋晴	静岡	222.2
6位	廣川 靖晃	静岡	221.2

【J2リーグ】

〔総合〕

1位	岩谷 勝弘	奈良	1330.3
2位	藤原 功	兵庫	908.0
3位	荒木 哲也	大阪	858.0
4位	村田 好彦	埼玉	714.0
5位	花村 泰明	東京	662.0
6位	山田 裕一	神奈川	629.0

〔女子〕

1位	橋本 泉	埼玉	623.0
2位	坂本 智春	埼玉	600.0
3位	中目みどり	東京	590.0

〔チーム〕

1位	丹波パラグライダークラブA
2位	飛魔人クラブA
3位	とんぼ



オープンクラス

総合 1 位

呉本 圭樹

PWC、世界選手権という大会に参加しているが国内での総合優勝というタイトルは、私にとって非常に重要なものでした。国際的な成績はもちろん重要ですが、国内では勝っていて当然という見方をされることが多く、それだけに、今回の結果は非常に嬉しく、本音を言えばほっとしました。

2015シーズンは、自分らしい飛ぶことができるようになっていたのだと思います。

重要だったのは結果に焦ることなく、自分のできる飛ぶを確実にする。それは「結果」というものを求められる競技において非常に難しいテーマで、堅実に確実なフライトにつながっていきます。それが2015シーズンは理想に近い形でできたために、この結果を得ることになったのだと感じています。

もちろん、これを通過点として、次のシーズンも同じく優勝を、そして世界の大会でも優勝を狙っていくために、これからもトレーニングや知識の収集といったことを貪欲にしていき、更に磨きをかけ高みに上っていこうと決心できた結果となりました。

最後になりましたが、大会主催者および、運営関係者の皆様、応援してくださっている方々には「ありがとうございます」と声を大にして感謝を表したいと思います。



オープンクラス女子1位

スポーツクラス

総合・女子 1 位

高田 奈緒

もっとうまくなりたい。もっと沢山

の経験を増やしたい。そのために海外大会の遠征や大きな大会へのチャレンジ、自分の記録へのチャレンジをした2015年。いくつかの目標をたて、前だけを見て突き進んでいきました。その結果、スポーツ 1 位、オープン女子 1 位を取ることができ本当に嬉しく思っています。

私にはたくさんの切磋琢磨できる仲間がいます。調子が良い時も悪い時も色々なアドバイスや励ましをもらい、その大会に出ていなくても気持ちの部分でたくさんその仲間に支えてもらいました。私はその仲間がいたからこそこの結果が出せたのだと思っています。ありがとうございました。

2016年はまた皆で腕を磨き合いながら、さらに自分の目指す飛びが常に行えるように前を向いていきたいなと思っています。

最後に各エリアの方々、大会競技委員会の方、関係者の皆様、私たち選手がいつも楽しく大会に参加出来るのは私たちには見えないところでたくさんの方が力を貸してくださっているからだと思います。本当にありがとうございました。2016年シーズンもどうぞよろしくお願いいたします。



J2リーグ

総合 1 位

岩谷 勝弘

スクールの引率で大会に出場しました。これから大会数も増えて参加者ももっと増えると楽しみです。

まだ大会に出ていない方も登竜門としてJ2リーグに出場されるとよいと思います。Jリーグ、J2リーグの盛会をお祈りしています。



J2リーグ

女子 1 位

橋本 泉

今回はラッキーが重なり、朝霧の1大会のみの参加で女子優勝しました。ありがとうございます。

気象状況があまり良くなく、初日は

エラップスで10kmほどのショートタスク。2日目は途中タスクキャンセル。と、内容的には物足りない大会でした。それでも、大量ゴールのサービスタスクでリーグ規定により女子1位は嬉しいです。

私は、Jリーグには2013年頃から参加しているのですが、特にJ2リーグは大会入門編として参加できるので楽しいです。J1リーグの選手たちと一緒に飛ぶことが出来たり、フリーフライトとは違う緊張感のテイクオフだったり、自分の課題が見つかったりします。

もっと大勢のフライヤーが参加すれば、大会数も増え盛り上がると思います。私も積極的に大会に参加していきたいと思っています。

大会運営の皆さま、エリアの方々、いつもありがとうございます。大変なことも多いと思いますが、これからもよろしくお願いいたします。

パラグライディング

クロスカントリーリーグ

1位	中川 喜昭	茨城	計470.7km
2位	二三四藤昭	神奈川	計434.7km
3位	関口 典彦	千葉	計340.4km
4位	氏田 敏彦	神奈川	計331.1km
5位	中目みどり	東京	計328.6km
6位	多賀 純一	神奈川	計324.6km

最長飛行 中川 喜昭 168.6km



PG XCリーグ 1位 中川 喜昭

〈PG XC国内最高距離記録〉

足尾からのクロスカントリーフライトに長く取り組んできて、なかなか良い結果を出すことができませんでした。しかしその年月は、このフライトを得るためのエネルギーを蓄えていたのかもしれない。たくさん悔しい思いをした蓄積があったからこそ飛べたのだと思います。

クロスカントリーフライトの目標は、その日のフライトコンディションを使い切ることだと思います。いま思い返しても、福島市まで届いたフライトは、私が持つ能力として最高の出来だったと言えます。もちろん、より高い能力があれば、もっと飛べたと思います。

去年は、多くの経験を積むことができました。これを生かして、またこれからも腕を磨いて、より遠くを目指します。

〈PG XCリーグ 1位〉

クロスカントリーリーグ1位を過去最高の合計距離で獲得できたことを、

とても嬉しく思います。去年は4月半ばに雨が続き、このままシーズンが終わってしまうのかと危ぶむ日々でした。しかしその後、絶好のコンディションが到来しました。クロスカントリーリーグに計上した4つのフライトのうち3つは、この4月後半の1週間に集中しています。

素晴らしいクロスカントリーフライトを成功させるためには、まず第一に良いコンディションが必要です。足尾からのフライトならば、福島県まで連れて行ってくれる風が吹くかどうかどうかが鍵になります。残念ながら、チャンスはそれほど多くはありません。いつ来るのかは誰にも判らないことですが、いつ来てもいいように準備を整えています。今年も良い成績を残せるようにがんばります。

ハンググライディング

クロスカントリーリーグ

1位 砂間 隆司 鳥取 173.3km



HG XCリーグ 1位 砂間 隆司

2015年5月2日、岡山県大佐山から京都府船井郡京丹波町まで173.3kmの

2015シーズンの競技を振り返って

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

●Jリーグ

2015年度Jリーグは、8大会が開催され、6大会が成立した。参加選手105名と、2014年度より僅かに増加した。喜ばしい限りだ。残念であったのは、Jリーグの中で特に人気の鳴倉大会が、道路の崩壊のため、開催を断念しなければならなかったことだ。その代わりに久しぶりに北海道のニセコでJリーグが開催された。生憎コンディション的に恵まれず、思う存分飛べたとは言えないが、スケールの大きい景観のもとエリアの楽しさの一端を垣間見ることが出来たと思う。

年に1ヶ所くらいは、例年とは違うエリアで大会を戦うのも、リーグを盛り上げることに繋がると思う。

最後に、スポーツクラスで総合のトップ3と女子のトップ3がまったく同じという結果に「女子クラスを

廃止したほうが良いのでは」との意見も出るほど。この日本女子の活躍は、先ごろ開催されたCIVL総会でもちょっとした話題になった。

●アキュラシーリーグ

2015年度は6大会が開催され、参加選手数25名であった。参加人数は若干減少して、残念な結果となったが、FAIもアキュラシーは観客を集められる種目としてインフラを整備して盛り上げていこうとする機運にあるので、今後に期待が寄せられる。

世界に目を向ければ、アジアにおける若年層の台頭が著しい。アキュラシー競技は奥が深いが、種目としては単純でDCと言われる直径2cmのターゲットにどれだけ近くランディングできるかを競うもので、誰でも参加できるものなので、気楽に参加してもらいたい。

今年は、若者の参加を促すために、新しいクラスとして学生クラスを設けて、学生連盟に登録している競技者の新規参加を期待している。

●XCリーグ

2015年度は30人がエントリーし92本のフライトが申請され、100km超のフライトが10本と比較的好条件に恵まれた年となった。

その中でも特筆すべきは、これまでの国内XC最長距離であった160.2kmを、4月28日に足尾山から福島県福島市への168.6kmを飛んだ中川喜昭選手が塗り替えたことだ。

また全フライトの95%が足尾山から東北方向へのもので、場の風、アウトランディングが比較的容易であるというコンディションに恵まれたクロカンのメッカとしての足尾の位置は揺るぎないものとなっている。

クロスカントリーに成功しました。

2015年の大佐山からのクロスカントリーは当たり年だったと思います。週末に晴れる日が多く、クロスカントリー記録を狙う上ではマイナスですが、西風が強い日がなかったのが、テイクオフ前があまり荒れたコンディションになりませんでした。(大佐山は東方向へのクロスカントリーとなるので西風が最も飛行距離を伸ばしやすい。)

当日の大佐山周辺は南東の風でした。最近では予報の段階で、かなり詳細な風向、風速が分かってしまうので、パイロットによっては飛ぶ日を選び過

ぎる、というマイナス面もあります。

私は単純に飛ぶのが大好きなので、春の大佐山で飛べるのが確実であれば、同行者を探してなんとか飛びに行きます。また、この日は大佐山周辺こそ南東風でしたが、クロスカントリーコース上は南西の区間もあったし、基本は南風ベースながら2000m前後は上がる予報だったので、国内記録更新(213km)は難しいけれど、100マイル(160km) くらいの距離は狙えると考えていました。

フライト中には4月28日のパラグライダーの国内日本新記録168kmも意識

しました。やっぱり滑空性能の高いハンググライダーのコンペ機でパラグライダーに負けたくないですからね。

現在、ハングのXCリーグは各人の最長フライト距離1本を採用となっていて、申請する人が少ないですが、有効なフライトをして、規程に沿ってGPSログを申請すれば、比較的簡単に参加出来ます。今年は50km以上のフライトをしたらどんどん申請してXCリーグを盛り上げましょう。

*当日のライブトラック

<http://www.livetrack24.com/track/466015>

2015 XCリーグを振り返って

ハンググライディング競技委員長 板垣 直樹

ハンググライダーの性能が上がり、行きっぱなしのクロスカントリーフライトは少なくなってきたと思う。滑空性が良くなりヘッドウインドでも気にならなくなってきたため、Out&ReturnやTriangle等のフライトで長い距離を飛べるようになってきたからだろう。

それでも、より高く!より遠くへ!と1kmでも先をめざすクロスカントリーは、空を飛ぶ人たちには何ものにも替えがたい魅力がある!

今年はオーストラリアの大会中にな

るが、368kmのタスクを磯本容子がゴールし、日本人として最長、また女子世界ストレートディスタンスの両記録を打ち立てた。

ここ数年の国内では、西の大佐エリアと東の板敷や足尾エリアから毎年熱い思いのパイロット達がそれぞれの記録を狙いフライトしている。

そんな中で昨年、一番遠くまで到達したのは大佐エリアから京都府船井郡京丹波町までの173.3kmを飛んだ砂間隆司だ。

砂間はメキシコでの世界選手権でも日本人トップの好成績を残すなどこの数年の活躍は目覚ましい。

今年も素晴らしい記録を狙い多くのパイロットがフライトすると思う。しかし無理する事なく安全に楽しんでフライトしてほしい。

近年は200kmを狙うパイロットが増えているが、たとえ距離が短くても自己の記録を伸ばしてほしい。また多くのパイロットにクロカンリーグに参加してもらおう事も願っています。

2016ハンググライディング日本選手権IN板敷山スプリングフライト

大門が選手権を奪還、女子は磯本が四連覇。

3月17日-21日 茨城県石岡市 板敷山フライトエリア 報告: 競技委員長 大澤 豊

昨年の足尾エリアに続き2年連続で茨城県開催となったハンググライディング日本選手権。今年は3月17日~21日の5日間で開催された。

大会初日は移動性の高気圧に覆われ穏やかな一日。上空の寒気は抜け気味だが、予想最高気温は20℃程で、気温減率は良くないもののコンバージェンスラインを飛べれば距離が延びるトリッキーなコンディションだ。

タスクは板敷テイクオフ→三菱テストコース→黒羽ゴールの67.7km

ゲートオープン後、渋いながらも徐々に高度を上げていく選手達。上がらずランディングする選手は少なくレース展開になるかと思うスタート前だが、1000m前後から抜けきらない選

手が多く、1回目12:30でスタートを切る選手はいなかった。2回目のスタートで1400~1500m程まで上げきりスタートを切ったのは板垣や小梶の数人で、大半の選手は3回目の13:10スタートとなった。

スタートを切ったのは我国山頂からと加波山からの選手に分かれ、このスタート位置の取り方で大きく明暗が分かれる結果となった。

我国山から高峰、そこから平野には出ずに、ターンポイントのやや東コースの丘陵地帯にコンバージェンスラインが延びて、サーマルをつないだ板垣が常に単独でトップを飛びそのまま逃げきり格好でファーストゴール。加波山から直線コースを選び富谷山で上げた選手は、平野に出てコンバージェンスの西に外

れ、ほとんどが次のサーマルを見つけれずにランディングしてしまった。

ターンポイント後に大門に追いつかれた板垣だが、そこからのサイドウインドになるレグは厳しく、お互いにサーマルを探し合って何とかゴールへとたどり着いた。1位大門、2位板垣、3番手に軽量パイロットの阿部が入り、43名中6名がゴールのサバイバルレースだった。

競技2日目の18日は昨日の移動性高気圧が東に、日本列島は西高東低の気圧配置となる。

西風強めの予報だが選手は全員が登頂。機体セットアップを始める選手もいるが、テイクオフ場は西風平均6~8m程で競技の安全性を考慮しキャン

セルとなる。

競技3日目の19日は前線を伴う低気圧の通過で雨。2日続けての競技キャンセル。

競技4日目の20日は弱い冬型の気圧配置で、北東気流の板敷周辺は非常に飛び難い東風となりトリッキーな展開となる。

タスクは板敷テイクオフ→足尾テイクオフ→モーパラ→燕鉄塔→国民宿舎→烏山ゴール30km→関城ゴールの66.3km。

ゲートオープン後、渋々と上げ始める選手達。半数近い20機以上が上げ始めるが、サーマルが続かず大半がランディングするまさかの展開となる。初日1・2位の大門、板垣もその中にいた。

激渋のテイクオフ前を生き残った阿部や数人の選手が、海風の入る前の一瞬のコンバージェンスを逃さず足尾-筑波の尾根を飛びきりゴールへ向かう。しかし、筑波山を回る東風がゴール付近で南東のヘッドウインドになり、選手のゴールを阻んだ。ゴール手前2kmの服部が2位、ゴールまで僅か500m



最終日は午後からコンディション好転。撮影：鈴木康之



「絶対に勝つ！」強い思いで競技に臨んだ大門選手。



総合1～6位。大門選手、その勝負強さで中央に立つ。



阿部選手、2タスクで総合トップに立ったが……。撮影：杉山祥一（特記以外はすべて）

足りなかった阿部がこのタスクトップとなり、総合でも1位に躍り出た。

競技最終日、21日の午前中は曇り空。移動性の高気圧の張り出しが遅く、午後から晴れてコンディションは一転、期間中最もソアラブルになった。

タスクは板敷テイクオフ→仁井田駅→上平橋ゴールの52.5km。

テイクオフ上空では大半の選手が雲底につけ、1回目のスタート、12:40にレースが始まった。スタート後に一人抜け出したのはこの日も板垣で、単独でターンポイントの40km付近まで行くが、オーバーキャストにつかまりスタック、2番手グループに追い越される。

このグループを引っ張った昨年の日本チャンプの田中元気や中堅の鈴木由路、牟田園、加藤、そして若手の名草



学生トップの名草選手。ベテランに伍して総合12位。



女子1～3位。磯本選手、総合18位で女子四連覇。

をゴール前で悠々とかわし、この日の最速となった大門がベテランの意地と勝負強さを見せ、6度目の日本選手権を手にした。

春の変わりやすい天候で難しい条件での大会だったが、日本選手権として成立し選手達の5日間が終わった。

役員の不慣れなどもあり至らぬ点もありましたが、関係各位の協力をいただき、選手の頑張りのあつて、素晴らしい大会だったと自負しております。

成績

[総合]

1位	大門 浩二	茨城	2474点
2位	阿部 貢造	千葉	2337点
3位	板垣 直樹	茨城	2232点
4位	氏家 良彦	兵庫	2107点
5位	加藤 実	愛知	1949点
6位	砂間 隆司	鳥取	1854点

[女子]

1位	磯本 容子	和歌山	1351点
2位	鈴木 皓子	大阪	1011点
3位	櫻井さやか	栃木	939点

[学生]

1位	名草 慧	大阪	1519点
----	------	----	-------

日本選手権者から

□大門 浩二

今回の日本選手権は絶対優勝しようと挑みました。今年最初の西富士大会は不甲斐ない成績で、竜門の大会は優勝したもののポイントとしては不成立だったので、来年のブラジル世界選手権の出場資格を得るためにも落とせない大会でした。また、前回、前々回と2回の世界選手権をお休みしていたの

で、日本チャンピオンとして世界選手権に出場したいと考えていました。

Task1では、板垣選手と小梶選手が絶妙なタイミングと高度でスタートを切ったが、自分はまだ十分な高度に達していないし時間のタイミングも悪かったのでじっと我慢し、2回目のスタートに。途中で単独行になったが、この先どこかに板垣選手達も渋いコンディションの中にと自分と言いつつ進むと、パイロン手前でその機影を捉え何とか追いつき、ほぼ同時にゴールすることが出来た。

Task2ではまさかのリフライト。しかし運よく、大きく順位を落とすことなく総合2位。

迎えた最終日、トップの阿部選手とは60点差、3位で追いついてくる板垣選手とは70点差。さてどうする。当然タスクトップを狙う。板垣選手は多少のリスクをとってでも逆転を狙うはず。

阿部選手も上位に食い込んでくるはず。

スタートと2つ目のサーマルでは阿部選手の姿を見かけなかったので意識しないことにした。だが、板垣選手は先に上げきり僅かに先行。ここでの判断は、先のコースでブルーホールっぽい空域が広がっているの、板垣選手との1オン1のリスクは避け、集団の上をキープして最後にトップゴールすること。この判断が功を奏してタスクトップを取ることが出来、優勝できた。

6度目の日本チャンピオンタイトル獲ったぞー！50歳になりましたが、まだまだ第一線で勝負を楽しみたいと思います。

最後に一つだけ。選手の皆さんにはもっともっと上昇能力を高めることを考えてほしいと思います。

□磯本 容子

トリッキーなコンディションに翻弄

された印象の強い日本選手権でした。競技フライトが出来た3日間、全てにおいて正しい判断が求められるシビアな大会だったと思います。

女子では優勝出来ました、今大会でのフライトは何れも課題の多いものとなりました。

シビアなコンディションでも、自分なりに満足のいくフライトが出来るよう、自らのフライトを改善していきたいと思います。



選手・役員みんなで無事に選手権成立、おめでとう！

JHFからのお知らせ

■補助動力副読本を頒布しています

「JHFパラグライディング教本副読本[動力付きパラグライダー（補助動力技能証/MPG技能証課程）]」を頒布中。

動力を使用したパラグライディングの練習のポイントと最低限の基礎知識を載せており、教本とともに繰り返し読んで、安全で楽しいフライト活動の助けにさせていただくものです。初心者の方はもちろん、すでに技能証をお持ちの方も、ぜひお読みください。

価格・申込方法：

頒布価格1,000円（送料別）。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。注文書はJHFウェブサイト「書籍情報」からダウンロードできます。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中です

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「テイクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影し

たものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるテイクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

価格・申込方法：

頒布価格それぞれ1枚1,500円（送料込）で、お申し込み30枚毎に1枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただくか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

■JHF備品を貸し出しています

JHFでは備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。

■住所変更届けのお願い

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No.／お名前／変更後のご住所／連絡先電話番号／メールアドレス

■お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp

http://jhf.hangpara.or.jp/

*このJHFレポートには賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県、山梨県、静岡県、岡山県在住の方には、各県連盟からのお知らせも同封しています。

東日本大震災被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱東京UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート213号

発行日：2016年（平成28年）4月20日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社サンライズ